

計画区域

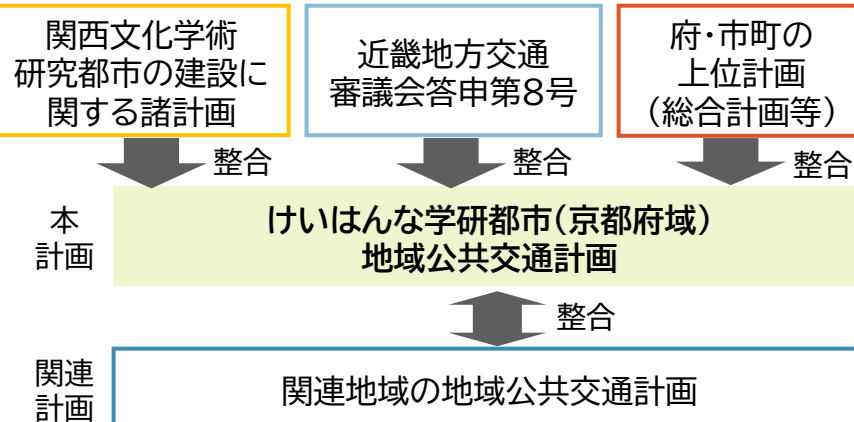
けいはんな学研都市の京都府域
(京田辺市・木津川市の学研都市区域、
精華町の全域)

計画期間

おおそ30年後の将来を見据えつつ、
令和7年度から令和16年度までの
10年間の計画とする

施策の概念図

計画の位置づけ



けいはんな学研都市(京都府域)地域公共交通計画

概要版

最終案

令和7年3月策定

計画策定の趣旨

けいはんな学研都市は、1987年の都市建設開始から38年が経過し、京都府域においては文化学術研究地区の概ね7割が整備されました。開発が先行した文化学術研究地区(クラスター)では相当程度の施設集積が図られつつあり、残る未整備クラスターについても、この先10年で、面整備全体の概成を見通せる地点に立とうとしています。

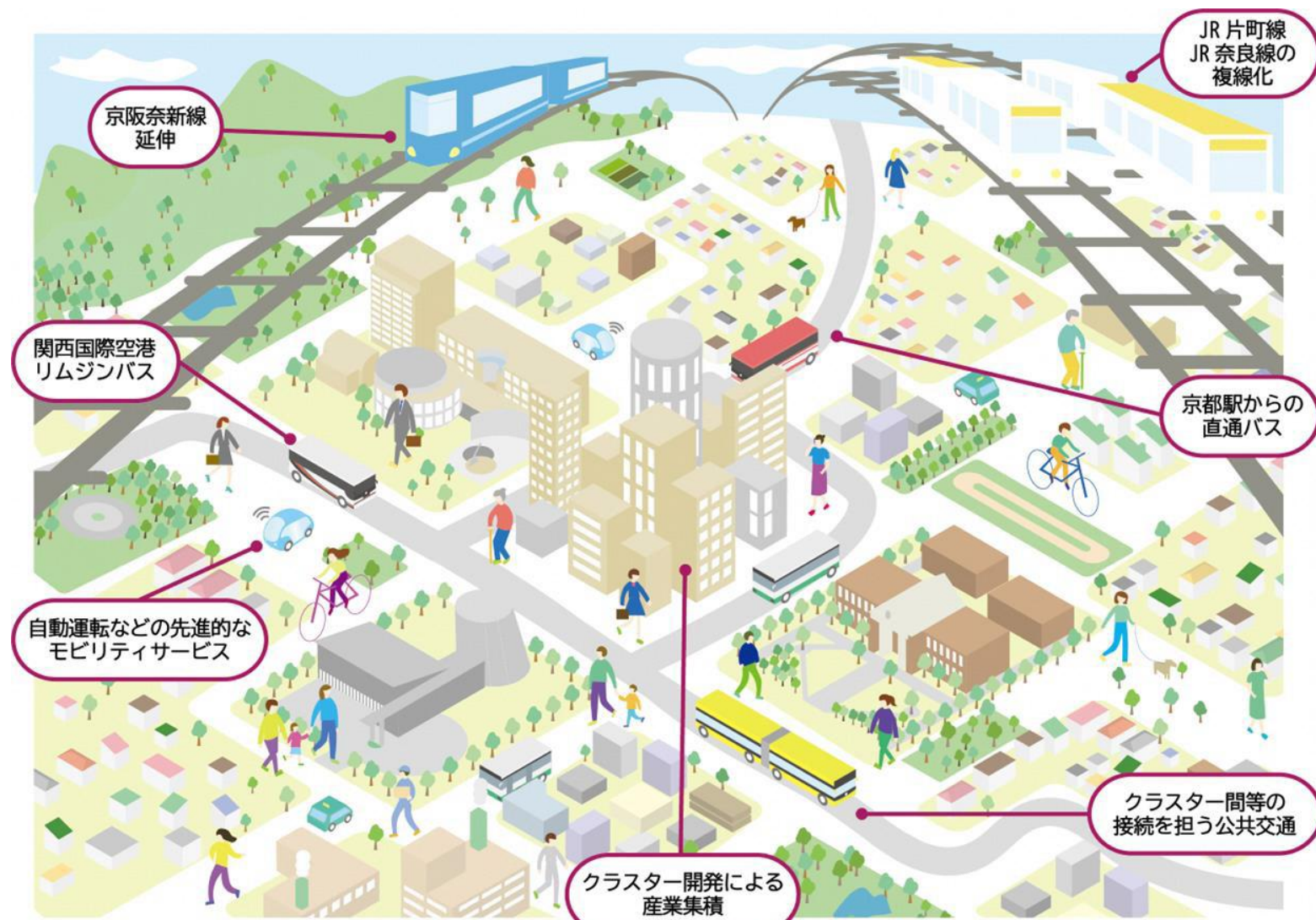
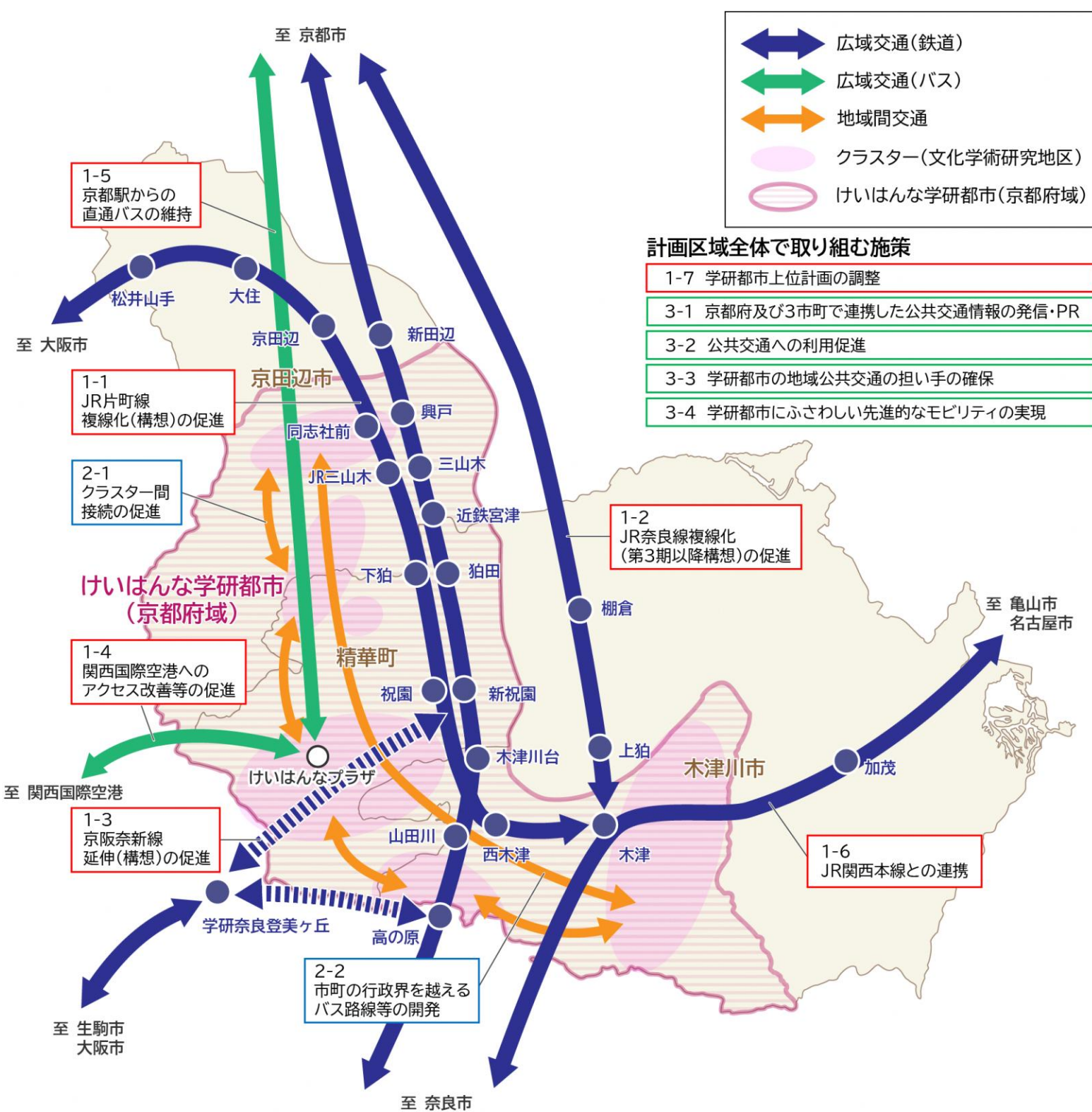
この間、道路交通によるアクセスについては、京奈和自動車道や新名神高速道路、山手幹線、国道24号城陽井手木津川バイパス、国道163号(清滝生駒道路・精華拡幅)等、整備が進められています。

一方、公共交通については、鉄道の整備・複線化等が進まず、クラスター間や市町行政界を跨ぐ公共交通は発達していないなど、けいはんな学研都市建設当時とあまり変化が無い状況にあります。今後、一層の研究開発と産業の集積が図られようとしているにも関わらず、学研都市区域を中核とする京都南部における広域的な自立圏形成に必要な公共交通サービスは全体として衰退傾向にある状況です。

本計画は、けいはんな学研都市(京都府域)にとっての望ましい地域公共交通の将来像についての共通認識を打ち立て、中長期的な公共交通の将来像を示し、公共交通整備の方向性と当面の取り組み施策を掲げ、ひいては学研都市全体の次期ステージ・プランにおける公共交通基盤整備の方針策定にあたっての先駆的役割を果たすことを目指すものです。

将来イメージ

学研都市の新たなクラスター開発による産業集積が進み、また、広域的なアクセスによる鉄道整備や区域内の公共交通が充実し、人の移動や交流が活発になっているイメージを表現しています。



解決すべき主な課題

1. 広域的な公共交通アクセスの改善

けいはんな学研都市(京都府域)では、既に相当程度の研究開発と産業の集積が図られ、今後も新たなクラスター開発が予定されている。本区域の持続的な発展を支えるためにはこれまで取り組んできた道路整備のみならず、広域的な公共交通の充実が求められており、その全体像を示す公共交通計画の策定が必要である。とりわけ、本区域の学研都市建設の総仕上げとして、京都、大阪及び奈良の母都市や関西国際空港からのアクセス強化のため、京都府南部地域の鉄道ネットワークの強化に向け、JR片町線、奈良線の利便性向上(複線化等)及び京阪奈新線の延伸が必要である。

2. クラスター間の交流促進

けいはんな学研都市の特徴として、12のクラスターが分散配置されており、京都府域においては長年未整備クラスターとして取り残されていた地区の開発がようやく進み始めてきている。こうした中で、今後けいはんな学研都市(京都府域)内への新たな施設立地の増加により、通勤等の交通需要や研究所・大学・企業間等の連携・交流の需要も見込まれることから、移動手段としてクラスター間等を結ぶ公共交通網の整備・充実が必要である。

3. 公共交通を地域で支える意識の向上

地域住民からは公共交通網の充実を求める声がある一方、三大都市圏に位置しながら日常生活行動では公共交通よりも自動車への依存率が高く、交通事業者からは需要と供給のバランスについて懸念する意見等も挙げられている。一方、けいはんな学研都市では、パイロットモデル都市として様々な実証実験を展開してきた実績があり、新たなモビリティの実験実証フィールドとして住民にとっても受け入れられやすい地域である。こうしたことから、公共交通網の持続的発展に向けては、交通事業者だけでなく、行政や住民、企業等も連携し、利用促進やモビリティ・マネジメントの取組等を通して、公共交通を地域で支える意識を高めることが必要である。

目指すべき将来像

1

JR片町線・JR奈良線の複線化・高速化及び京阪奈新線の整備を行うことにより、母都市(京都・大阪・奈良)や関西国際空港からのアクセスが向上し、学研都市の競争力強化、利便性、輸送力が確保されています。

2

クラスター間や市町界を越える公共交通が整備され、都市内の移動や交流が活発になっています。

3

都市内の移動は公共交通網の整備、充実により、自動車から多様な公共交通への転換が図られ、都市内外の移動の利便性、快適性、持続可能性が向上しています。

実施する施策・事業

1-1 JR片町線複線化(構想)の促進

①JR片町線の複線化に向けた事業化調査、②JR片町線の複線化推進活動、③JR片町線の利用促進活動

1-2 JR奈良線複線化(第3期以降構想)の促進

①JR奈良線の複線化に向けた事業化調査、②JR奈良線の複線化推進活動、③JR奈良線の利用促進活動

1-3 京阪奈新線延伸(構想)の促進

①京阪奈新線延伸に向けた事業化調査、②京阪奈新線延伸に係る推進活動、③機運醸成のための啓発活動

1-4 関西国際空港へのアクセス改善等の促進

①関西国際空港へのアクセス改善に向けた調査

1-5 京都駅からの直通バスの維持

①京都～けいはんな学研都市直通バスの運行の継続

1-6 JR関西本線との連携

①JR関西本線との連携によるイベントの開催

1-7 学研都市上位計画の調整

①学研都市上位計画との計画調整の実施

2-1 クラスター間接続の促進

①クラスター間を接続する公共交通整備の促進

2-2 市町の行政界を越えるバス路線等の開発

①既存バスの効果的な運用に向けた実証運行計画の立案

3-1 京都府及び3市町で連携した公共交通情報の発信・PR

①3市町の公共交通ポータルサイトの作成、②鉄道駅・バス停における経路表示や情報提供の充実

3-2 公共交通への利用促進

①モビリティマネジメント等による公共交通への利用転換

3-3 学研都市の地域公共交通の担い手の確保

①交通事業者の運転手確保に関する情報発信

3-4 学研都市にふさわしい先進的なモビリティの実現

①キャッシュレス決済の拡大、②広域的なMaaSの導入可能性調査、③先進的自動運転技術導入のための基盤整備、④次世代モビリティの実証運行